

科目名	教育方法論						
科目名(英)	Education Method						
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	前田 聖悟		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	保育園において保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	幼児にとって基本となる幼児教育とはどういったものかを正しく理解し、保育の方法的基盤となる知識、技術を実践を通して学ぶ。また、保護者支援や地域連携、小学校との連携等についての理解を深めこれからの保育者に求められる知識の基礎を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					幼児期における遊びの役割と重要性を理解し述べる事が出来る	
	○					幼児期の教育と小学校以降の教育の違いを理解し述べる事が出来る	
	○					幼児教育における五領域の意味とその捉え方を説明する事が出来る	
	○					幼稚園と小学校の教育の連続性を理解し述べる事が出来る	
	◎	○				日本の子育て、保育を取り巻く環境について述べる事が出来る	
	○	◎				保護者と保育者の関係性、保護者の変容について説明する事が出来る	
	○	○	◎			地域の資源を活かす保育について考え園外保育をデザインする事が出来る	
○	◎				保育におけるカウンセリングマインドを述べる事が出来る		
テキスト・教材 参考図書	北大路書房版 保育の内容・方法を知る 幼児教育の方法						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション、遊びの始まりについて知る					
	2	色水遊びを五領域の視点で捉える					
	3	グループワーク、レポート作成			学外での授業になるので動きやすい服装の準備		
	4	だるまさんがころんだを五領域の視点で捉える					
	5	グループワーク、レポート作成			学外での授業になるので動きやすい服装の準備		
	6	廃材を使った遊びを五領域の視点で捉える					
	7	グループワーク、レポート作成			学外での授業になるので動きやすい服装の準備		
	8	遊びの重要性について、レポート作成					
	9	レポート作成			授業のノートや教科書の内容をまとめておく		
	10	幼児期から学童期への発達上の特性について					
	11	バケツ論、サーチライト論について					
	12	目的としての遊びと手段としての遊びについて					
	13	学習指導要領から保育を考える					
	14	乳幼児期の教育と小学校以降の教育の違いについて、レポート作成					
	15	レポート作成			授業のノートや教科書の内容をまとめておく		
	16	レポート作成			授業のノートや教科書の内容をまとめておく		
	17	日本の子育て、保育を取り巻く環境について					
	18	日本の子育て、保育を取り巻く環境について					
	19	保護者の変容、保護者との関係性について					
	20	地域の資源や教育力を活かす保育について			学外での活動になるので動きやすい服装		
	21	地域の資源や教育力を活かす保育について			発表のための資料を準備		
	22	育児不安を持つ保護者の支援について					
	23	保育におけるカウンセリングマインドについて					
24	保育におけるカウンセリングマインドについて						
評価方法	①授業態度 ②レポート ③実践への取り組み ④正試験(筆記) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				◎		20%
	レポート	◎	○				30%
	取り組み		○		◎		10%
正試験	◎	◎				40%	
履修上の注意	レポート提出がなかった場合科目試験受験は認めない 1/3以上の欠席で単位を付与しない						

科目名	社会的養護 I						
科目名(英)	Social care						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	児童養護施設において保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	前期の「児童と環境」から社会的養護について学習した内容をさらに深く掘り下げる。社会的養護(児童養護施設、乳児院など)と家庭用悟(里親制度、養子縁組制度など)の違いを理解し、保育士としてこのような制度に暮らす子どもたちの課題、問題点について、どのような支援が求められているかを学ぶ。3年次における施設実習に繋がられるような授業を展開する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				施設での子どもたちの生活、保育者の生活指導について説明できる。	
	○	○				施設における自立に向けての支援について説明できる。	
	○	○				施設の形態について4つ挙げ、説明することができる。	
	○	○				家庭養護において、里親の種類、役割について説明することができる。	
○	○				養子縁組について内容を理解し、説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 社会的養護 I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	施設における日常生活について考える				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	施設における日常生活について、レポートを書く				レポートの資料を準備する	
	3	施設における自立に向けての支援について考える				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	施設における自立に向けての支援について考える				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	施設における自立に向けての支援についてレポートを書く				レポートの資料を準備する	
	6	グループに分かれて調べ学習				調べ学習の資料を準備する	
	7	グループに分かれて調べ学習				調べ学習の資料を準備する	
	8	発表① 児童虐待防止法について				発表グループは事前の準備をしておくこと	
	9	発表② 児童の権利条約について				発表グループは事前の準備をしておくこと	
	10	発表③ 大舎制、小舎制について				発表グループは事前の準備をしておくこと	
	11	発表④ ファミリーホーム、地域小規模児童養護施設について				発表グループは事前の準備をしておくこと	
	12	発表⑤ 里親制度について				発表グループは事前の準備をしておくこと	
	13	発表⑥ 特別養子縁組について				発表グループは事前の準備をしておくこと	
	14	科目試験対策、まとめ				科目試験に関する資料を準備しておくこと	
15	科目試験対策、まとめ				科目試験に関する資料を準備しておくこと		
評価方法	(1)レポート提出 (2)科目試験 (3)グループ発表 (4)出席率・授業態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		◎		○		50%
	科目試験	◎					20%
	グループ発表		○		◎		20%
	出席率・授業態度				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	GCB I						
科目名(英)	Global Citizen Basic I						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	自立しながらも互いに協力し合うことで世界が成り立っていることを認識し、恵まれた人生を過ごしていることに感謝し地域、国家の発展に貢献する人材を育成する						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		自ら考える、気づく。積極的に参加(話し合い、発表)する。日常生活で実践する。	
テキスト・教材 参考図書	・グローバルシティズンベーシック I (学生用テキスト)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指す				振り返りレポートの作成	
	2	「協働」の態度を持った学生生活				振り返りレポートの作成	
	3	人間関係の構築に向けて～モラル・ルール・マナーの重要性～				振り返りレポートの作成	
	4	マナーの本質①				振り返りレポートの作成	
	5	マナーの本質②				振り返りレポートの作成	
	6	グローバルシティズンとしての日常				振り返りレポートの作成	
	7	グローバルシティズンとしての目標				振り返りレポートの作成	
	8	グローバルシティズンとしての「志」に向けて				振り返りレポートの作成	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)感想レポート実施(8回) (2)最終回に全体に向けた発表						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート作成・発表				◎		100%
履修上の注意	出席が6回以上無い場合は単位取得ができない。						

科目名	カウンセリング概論								
科目名(英)									
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	姫田 尚子				
実施年度	2019年	実施時期	後期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	こども未来科 1年								
授業概要	「心を科学的に解明する学問」である心理学を学ぶことによって、他者や自分自身を論理的かつ客観的に理解することができる。また、人間関係や仕事の悩み、心のトラブルなど、日常生活の様々な場面での問題を心理学理論を活用し解決するスキルの習得を目指す。								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○					カウンセリングとはどういうものを理解し、説明できる。			
	○					心理学の大きな流れを理解し、説明できる。			
	○					現代のカウンセリングに影響を及ぼした人物を知り、その理論を説明できる。			
	○			○		心理学理論を問題解決に活用できるようになる。			
テキスト・教材 参考図書	●実務教育出版「TA TODAY」 ●西東社「心理学の本」 ●学事出版「人間関係スキルアップワークシート」 ●誠信書房「交流分析による人格適応論」								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1	カウンセリング概論							
	2	心理学概論							
	3	ロジャーズ・マズロー							
	4	フロイト・ユング							
	5	アドラー(1)							
	6	アドラー(2)							
	7	自分を知ろう(1)							
	8	自分を知ろう(2)							
	9	気持ちはどこからくるの?～ABC「こころの法則」							
	10	いろいろな考え方をしてみよう							
	11	認知を変えてストレスを小さくしよう							
	12	いろいろなこころを使ってみよう							
	13	いろいろな可能性を考えよう							
	14	人格適応論							
15	まとめ					後期のまとめをするので、復習しておくこと			
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	○				50%		
	演習	○	◎		◎		30%		
	理解したこと・感じたこと	◎	○				20%		
履修上の注意									

科目名	ペン字 I - ②						
科目名(英)	Penmanship						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	入江 陽子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者として、日常生活における硬筆・毛筆の基礎力をつける。 ・正しいペンの持ち方・姿勢を守り書写することにより集中力をつける。 						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					正しい言葉づかいで書写することができる	
			○			書式に従って、美しい文字で書写することができる	
			○			正しいペンの持ち方・姿勢で書写することができる	
				○		集中力を持って取り組むことができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ペン字の基本 - 漢字の復習				ペン書きに慣れておくこと	
	2	ペン字の基本 - 手紙文・平仮名の復習				漢字開所の復習をしておくこと	
	3	実用書(筆ペン) - 用筆の練習・氏名				平仮名の復習をしておくこと	
	4	実用書(筆ペン) - 芳名帳の練習				筆ペンの用筆の復習をしておくこと	
	5	実用書(筆ペン) - のし書きの書式				氏名の練習をしておくこと	
	6	実用書(筆ペン) - はがきの表書きと裏書き				のし書きを仕上げておくこと	
	7	実用書(筆ペン) - 年賀状と寒中見舞				年賀状を用意しておくこと	
	8	ペン字のまとめ - 期末試験				今までのプリントをまとめておくこと	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業最終回で実施する期末試験を実技評価とする(持ち込み可) (2)出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点未満)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(授業中)	○		◎			80%
	出席				◎		20%
履修上の注意	黒の水性ボールペン・筆ペンを用意 年賀状を用意 試験時は、今までのプリント持ち込み可とするのでまとめておくこと						

科目名	レクリエーション II						
科目名(英)	recreation						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	添田譲二		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	現代社会の中で、余暇やレクリエーションのもつ意味も、単なる気晴らしではなく充実した人生づくりの基盤の一つへと変化してきている。子どもたちにとって遊びそのものが生活の一部であると同時に、遊びを通して協調性や思いやりなど人間形成にも影響力をもっていると考えている。このような中でレクリエーションがもつプラスの価値をどのような支援体制で展開すればよいかを解説する。そこで、遊びを体験しながら遊びの必要性や支援方法を理解することを目標に授業を展開していく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○				レクリエーションの必要性を理解して説明できるようになる		
		○		○	レクリエーションの多くの素材を覚えて支援することができる		
		○		○	コミュニケーションの手段の一つとしてレクリエーションの素材を使い分けることができる		
目標							
テキスト・教材 参考図書	楽しい遊びの商店街 プリント資料【配付資料】						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	レクリエーション支援について(理論)					
	2	レクリエーションの素材の体験(ゲーム)					
	3	レクリエーションの素材のアレンジ方法(ゲーム遊び)					
	4	信頼関係づくり・ホスピタリティ(理論)					
	5	レクリエーションの素材体験(創作活動)					
	6	グループワーク・トレーニング①(素材別遊び創作)					
	7	グループワーク・トレーニング②(素材別遊び創作)					
	8	グループワーク・トレーニング③(素材別遊び創作)					
	9	楽しむための目標設定について(理論)					
	10	コミュニケーションについて体験活動(説得・納得)					
	11	レクリエーションの素材の体験(折り紙の世界)					
	12	レクリエーションの素材の体験(伝承あそび①)					
	13	レクリエーションの素材の体験(伝承あそび②)					
	14	レクリエーションの素材体験(思い出づくりのレクリエーション)					
	15	レクリエーション II のまとめ(理論)					
評価方法	授業中の課題に対して個人として取り組む。 グループを単位として、レクリエーション支援の企画をする。 授業の中で学んだレクリエーション情報をアレンジして、演習を通して提供する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実技演習	○	○		◎		50%
	授業中の課題(個人)		◎		○		30%
授業中の課題(グループ)	○	◎		○		20%	
履修上の注意	心にゆとりをもち、さわやかな笑顔で受講すること。 授業内容を楽しむ気持ちをもって受講すること。 目を輝かせ動作はハツラツとすること。						

科目名	一般教養 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岩下 隆司		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで習ってきた漢字を復習し、漢字を書く習慣を身に付ける ・漢字の正しい使い方を習得し、実習日誌等で適切に漢字を使った文章を書けるようになる 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					保育の現場でよく使う漢字を習得する	
	○					日常よく使用する常用漢字を習得する	
テキスト・教材 参考図書	実教出版 一般教養 & SPI2 わかば社 保育の基本用語						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	プリント「実習生による事前準備(読み→漢字)」					
	2	プリント「実習生による事前準備(読み→漢字)」					
	3	プリント「実習生による事前準備(漢字→読み)」					
	4	確認テスト					
	5	漢字プリント(常用漢字)①					
	6	漢字プリント(常用漢字)②					
	7	漢字プリント(常用漢字)③					
	8	漢字プリント(常用漢字)④					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	確認テストおよび後期末正試験で評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					40%
	小テスト	◎					40%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を付与しない。						

科目名	音楽表現 I -②						
科目名(英)	music performance I -②						
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	中村寛子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	保育の現場では、音楽は必須のものとなる。朝登園後「おはようの歌」、昼食には「お弁当の歌」、お昼寝時には「お休みの歌」、降園時には「お帰りの歌」、その他にも自然や季節を感じて感性を高めるために「様々な季節の歌」、「遊びうた」、誕生会等の行事に行進を促す「行進曲」等。その音楽をすべて、保育士が把握をし、ピアノで伴奏していかなくてはならない。この授業ではできる限り沢山の曲を歌い、ピアノ演奏する。そのために必要な技術、知識を身に付けるものである。1年生の間は、とにかくピアノになれること、ピアノを嫌いにならないこと、楽譜を読むようになること、正しい音程で歌えるようになること、等を目標にして授業を進める						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○				音楽の基本知識となる、楽典の習得(楽譜、音符や休符、拍子、記号等の知識)		
	○				ピアノ演奏実技の習得(正しい運指、テクニック、左右の手のスムーズな動き)に対するスムーズな動き		
	○				声楽の基本実技の習得(正しい音程、呼吸法、リズム等)		
テキスト・教材 参考図書	・近畿大学九州短期大学発行/ピアノ教本・声楽教本 ・チャイルド社発行/こどものうた100 ・ヤマハミュージックメディア発行/はじめての楽典ブック ・音楽の友社発行/バイエル教則本・講師作成の楽譜集(ファイル保管)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	・後期授業のガイダンス・夏休み宿題の確認(バイエル66番)(バイエル教則本)・練習			バイエル55番を練習してくる		
	2	・おはようのうたの解説と歌唱指導(5分)、演奏指導(15分)・バイエル70番(バイエル教則本)の解説、演奏指導(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			おはようの歌の弾き歌いを練習してくる		
	3	・おはようの歌の実習(5分)・虫の声(近大教本)の解説、演奏指導、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の弾き歌い(前て一人づつ)(5分)			むしのこえの弾き歌いを練習してくる。		
	4	・おはようのうたの実習(5分)・こぎつね(ファイル)の解説、歌唱指導、演奏指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			こぎつねの弾き歌いの練習をしてくる		
	5	・おはようの歌の実習(5分)・どんぐりころころ(近大教本)の演奏指導、歌唱指導、解説(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・おかえりのうたの実習(5分)			どんぐりころころの弾き歌いを練習してくる		
	6	・おはようの歌の実習(5分)・いもほりのうた(近大教本)の演奏指導、歌唱指導、解説(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			いもほりのうたの弾き歌いを練習してくる		
	7	・おはようのうたの実習(5分)・やきいもぐーちーばー(近大教本)の解説、演奏指導、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			やきいもぐーちーばーの弾き歌いを練習してくる		
	8	・おはようの歌の実習(5分)・ミッキーマウスマーチ(ファイル)の解説、演奏指導、歌唱指導(20分)・楽典(10分)・練習(50分)・お帰りの歌の実習(5分)			ミッキーマウスマーチの弾き歌いを練習してくる		
	9	・おはようの歌の実習(5分)・雪のペンキ屋さん(こどもの歌100)の解説、演奏指導、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			雪のペンキ屋さんの弾き歌いを練習してくる		
	10	・おはようの歌の実習(5分)・雪(ファイル)の解説、歌唱指導、演奏指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			雪の弾き歌いを練習してくる		
	11	・おはようの歌の実習(5分)・ジングルベル(こどもの歌100)の解説、演奏指導、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			ジングルベルの弾き歌いを練習してくる		
	12	・おはようの歌の実習(5分)・きよしこのよる(近大教本)の解説、演奏指導、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			きよしこの夜の弾き歌いの練習をしてくる		
	13	・おはようの歌の実習(5分)・お正月(近大教本)の解説、演奏指導、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			お正月の弾き歌いの練習をしてくる		
	14	・おはようの歌の実習(5分)・さよならのうた(こどもの歌100)の解説、演奏指導、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			さよならのうたの弾き歌いを練習してくる		
	15	・おはようの歌の実習(5分)・まめまき(近大教本)の解説、演奏指導、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の実習(5分)			豆まきの弾き歌いを練習してくる		
	16	・おはようの歌の実習(5分)・試験曲の練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			すべての曲が合格になるようにする		
	17	・おはようの歌の実習(5分)・ハッピーバースデー(近大教本)の解説、演奏指導、歌唱指導(10分)・楽典(10分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)			ハッピーバースデーの弾き歌いを練習してくる		
	18	・おはようの歌の実習(5分)・おててをあらいましょう(近大教本)の解説、演奏指導、歌唱指導(10分)・練習(70分)・お帰りの歌の実習(5分)			おててをあらいましょうの弾き歌い練習をしてくる		
	19	・おはようの歌の実習(5分)・試験曲の練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			試験曲の練習		
	20	・おはようの歌の実習(5分)・試験曲の練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			試験曲の練習		
	21	・おはようの歌の実習(5分)・試験曲の練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			試験曲の練習		
	22	・おはようの歌の実習(5分)・試験曲の練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			試験曲の練習		
	23	・おはようの歌の実習(5分)・試験曲の練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)			試験曲の練習		
24	後期試験						
評価方法	授業の課題曲をすべて合格しなければ、合格基準を満たさないものとする。また、おはようとお帰りの曲は、どこの園に行っても必ず演奏されているため、授業の初めと終わりに、学生が先生役を務めて弾き歌いをする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト		◎		○		20%
履修上の注意	実習前は実習前から指定された曲の練習を最優先とする。						

科目名	教育実習 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために第1回の実習では、観察・参加実習、部分実習を、さらに第2回の実習では、指導実習を主とする実習を行うこととする						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する	
				○		幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する	
				○		幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 幼稚園教育要領解説						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	10 日間	<p>以下のような観察視点から幼稚園においてどのような活動が、どのような方法で行われているかを把握することに努める</p> <p>①幼稚園における1日の生活・活動の流れと生活・活動内容の概要 ②遊び・生活場面での園児の行動 ③園児の行動に対する幼稚園教諭の対応</p> <p>参加実習では、指導教諭の指導と助言を受けながら、教育活動や園務に積極的に従事する</p>			<p>・実習で使用する手遊び、歌遊び、ゲームなどのレパートリーを増やしておくこと ・配属クラスの年齢に応じた指導計画案を作成すること ・実習後の授業、保育実習、就職活動、さらに、就職後の活動に向けた課題が鮮明になるような事後レポートを作成すること</p>		
評価方法	①実習日誌の記述内容 ②指導計画の記述内容 ③実習園による評価を総合的に評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習日誌				◎		50%
	指導計画				◎		30%
	実習園の評価				◎		20%
履修上の注意	実習要件科目の単位をすべて修得していること						

科目名	教育実習指導 I -②						
科目名(英)	Guidance to Teaching Practice(Kindergarden) I -②						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	教育実習に必要な知識・技術を身につけ、自ら意欲的に学ぶ姿勢を持って実習に臨むことができるようにすることを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					実習における指導案の役割と意味を理解し、適切な記入ができる。	
	○					実習における実習日誌の役割と意味を理解し、適切な記入ができる。	
		○		○		多角的に保育を捉える視点を持ち、子どもや教師と実習生として適切な関わりができる。	
テキスト・教材 参考図書	同文書院版 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	実習承諾までの流れ					
	2	実習園と学校の関係について					
	3	オリエンテーションとは					
	4	オリエンテーションの電話の掛け方					
	5	オリエンテーション時の対応について					
	6	実習について2年生からの話					
	7	実習について2年生からの話					
	8	観察実習のポイント					
	9	日誌記入のポイントについて					
	10	日誌記入における誤字脱字					
	11	指導案の書き方について					
	12	指導案記入に伴う子どもの姿の捉え方について					
	13	お土産保育について					
	14	実習生に求められる姿について					
15	実習前書類、履修カルテ等確認						
評価方法	①授業態度 ②提出物 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		50%
	提出物	◎			◎		20%
	取り組み		◎		◎	○	30%
履修上の注意	出席が10回に満たないものに単位の修得は認めない						

科目名	教育実習事前事後指導SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	阿部 良寛		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育実習に臨むにあたり、教育実習の目標・教育課程、意義について理解を深める。また、実習生としてふさわしい態度、学ぶ姿勢を身につけ保育を実践する力を養う。 ・ 実習日誌の書き方を知り、実習を想定してシミュレーションする。 						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		教育実習の目標・教育課程、意義について理解し内容を説明できる。	
	○	○	○	○		実習生にふさわしい学ぶ姿勢とは何かを考え、実践しようとする。	
		○	○	○		豊かな実習が行えるように、歌遊びや手遊びなどレパートリーを増やし研究している。	
	○	○	○			具体性のある日誌の書き方を知り、実践しようとする。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1 日 目	オリエンテーション				実習園の保育方針について調べてくる。	
		幼稚園実習の目標・教育課程				幼稚園教育要領を精読しておく。	
		幼稚園実習の意義				テキスト該当箇所を精読しておく。	
		実習生にふさわしい態度(身だしなみ)				テキスト該当箇所を精読しておく。	
		実習生にふさわしい態度(身だしなみ)				テキスト該当箇所を精読しておく。	
	2 日 目	手遊びの研究				自信をもってできる手遊びを5つ用意する。	
		歌遊びの研究				自信をもって歌える歌遊びを5つ用意する。	
		絵本の研究				自信をもって読み聞かせできる絵本を5冊用意する。	
		実習日誌の意義、書き方				テキスト該当箇所を精読しておく。	
		シミュレーション(保育場面を想定した記述)				テキスト該当箇所を精読しておく。	
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングに取り組む姿勢、クラスメイトとの関わり、スクーリング中の言動などを総合的に評価 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	取り組む姿勢			○	◎		50%
	発表				◎		30%
	シミュレーション			○	◎		20%
履修上の注意	遅刻・欠席は単位を付与しない						

科目名	教育心理学 SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	人はどのように学習していくのかということや、どのように人間関係を築いていくのかを学ぶ。また、実際の保育現場でどのように心理学の知見を役立てていけばよいかについて、演習やグループ討議を通じて理解を深める。最終的には、子どもたちへ伝えることを想定しての取り組みを行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		グループやクラス内において積極的な協力を実践することができる。	
	○					講義の課題に対して、自らの考えを積極的に発して議論することができる。	
	○	○		○		保育現場にて心理学の視点を活かして、工夫や援助ができるようになることを目指す	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目	オリエンテーション				
	2	1日目	様々なコミュニケーション方法について学ぶ				
	3	1日目	人間関係の構築の為パーソナルスペースなどについて学ぶ				
	4	1日目	1日目を終えての振り返り				
	5	2日目	障害の理解として手話ソングを学ぶ				
	6	2日目	障害の理解として手話ソングを学ぶ				
	7	2日目	学んだことを子どもたちへ伝える為のシミュレーションをする				
	8	2日目	2日間の振り返り				
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況		○		◎		60%
	レポート作成		○				20%
	発表への準備と実践の状況	○			○		20%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	健康科学						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	・WHOの健康の定義を理解し、現代社会の健康阻害要因について考える						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○		○			自分の体を知る	
			○			体のゆがみ・味覚障害・ドライアイ	
	○		○			栄養の過剰と隔たり	
テキスト・教材 参考図書	生涯スポーツ・健康科学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	健康の概念(WHOの定義)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	現代社会の健康阻害要因			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	運動不足の実態			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	体力の構成要素			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	運動の種類・自覚的運動強度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	アルコールパッチテスト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	歯磨き指導			歯磨きセットを持参すること		
	8	自分の体を知る			タオル、靴下を持参すること		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点未満)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト			◎		○	10%
	宿題・レポート						
	発表・作品					○	10%
	レポート・科目試験	◎	◎		◎		80%
履修上の注意	レポートが未提出の場合は科目試験の受験資格を与えない						

科目名	言葉(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	天野 恵		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人間にとっての言語の役割・言語発達についての理論を理解する。 ・言葉をはぐくむには、何が大切かを生活の面、情動交流の面等、多角的な視点で検討する。 ・領域「言葉」を理解し、言語環境の構成・言葉の力を育む指導について検討する。 						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		領域「言葉」の目標・ねらい・内容を理解しており、説明できる。	
	○	○		○		言葉の育つ環境について、知的発達のみならず身体的発達とも関連させ、説明できる。	
	○	○		○		言葉の響きの美しさをさまざまな技術を用いながら、子どもに伝えようとする態度をもつている。	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園教育要領、保育所保育指針 その他教員作成資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	子どもにとって「言葉」とは何か				保育所保育指針「言葉」の領域に関する記述を読んでおく。	
	2	領域「言葉」の目標・ねらい・内容に関する理解				幼稚園教育要領「言葉」の領域に関する記述を読んでおく。	
	3	子どもの言葉を引き出す保育者の関わり				子どもの言語発達の筋道について調べておく。	
	4	言葉が生まれる背景(情動交流の観点から)				言葉が育つにはどのようなことが必要か、大人との情動交流の観点から考えておく。	
	5	言葉が生まれる背景(身体的発達の観点から)				言葉が育つにはどのようなことが必要か、身体的発達の観点から考えておく。	
	6	保育の中での実践(子どもとの何気ない会話)				初めて子どもと出会ったとき、どのように言葉かけをするか考えておく。	
	7	保育の中での実践(絵本・紙芝居)				絵本・紙芝居の下読みをしておく。	
	8	保育の中での実践(言葉遊び・詩)				言葉遊びや詩を暗唱しておく。	
	9	保育の中での実践(わらべうた遊び)				子どもと遊ぶことのできるわらべうた遊びを3つ用意しておく。	
	10	まとめ(レポート作成)				子どもとのふれあいで学んだことを簡単にまとめておく。	
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)SCの出席(2)SC中の取り組みに対しての意欲関心態度(3)保育への取り組み、準備(4)レポート提出で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	意欲的な参加・発言		◎	◎	◎		40%
	保育への取り組み	◎	◎		◎		40%
	レポート	◎	◎		◎		20%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	合奏 I - ②						
科目名(英)	Ensemble						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中村寛子 高松聡美		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	保育の現場において必要不可欠な音楽、専門的な知識やそれを応用できる力が求められる。この授業では保育現場で活用できる曲や楽器を中心に取り組み、クラス単位で協力して準備・練習に取り組むことで、「コミュニケーション力」「チーム力」「忍耐力」「協調性」「人を思いやる心」を身に付ける。また資料、楽譜、楽器等自分の物、公共の物を大切にすることを身に付ける。12月目途に数曲仕上げる事ができる。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
						○ 自分の資料・楽譜に記名、ファイルに収め管理することができる。	
						○ 使った楽器を元通りに片づけることができる。	
			○			整列する、静かにする等練習の態勢を素早く整えることができる。	
				○		できないところを繰り返して練習に取り組むことができる。	
		○	○			クラスメイトと協力し合奏としての作品を仕上げる事ができる。	
テキスト・教材 参考図書	中村寛子編曲集 高松聡美編曲集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	後期について一取り組み曲など全体像を把握する			クラスのチームワークを整えておくこと		
	2	練習一楽譜を読む パート分けをする 役割分担を決める			楽譜をなくさないようにすること		
	3	練習一タンバリンなど小物楽器を中心とした合奏の練習			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	4	練習一通せるようになる			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	5	練習・レベルアップー強弱をつける テンポ感の調整 暗譜			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと 暗譜をすること		
	6	練習・レベルアップー全体の流れの調整			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	7	練習・レベルアップー動きを入れる等の総仕上げ			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	8	練習・レベルアップー動きを入れる等の総仕上げ			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)資料・楽譜の管理ができていないか。(2)授業中の態度・意欲。(3)作品発表を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品			○			30%
	授業態度				◎		40%
資料・楽譜・楽器管理					○	30%	
履修上の注意	作品(曲)を仕上げる練習過程を大切に。						

科目名	実習実務						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	教育実習、保育実習に関連する園訪問の際のマナーに関する事、言葉遣い、身だしなみ、立ち振る舞いなどを実践的に身に付けていくことを目的とする。						
授業形式	講義:	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					幼稚園、保育園で求められる社会人像について正しく理解することができる。	
	○			○		TPOに応じた言葉遣い、身だしなみ、立ち振る舞いを実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	幼稚園実習のオリエンテーションの際に気をつけること					
	2	幼稚園実習のオリエンテーションの際に気をつけること(身だしなみ)					
	3	幼稚園実習のオリエンテーションの際に気をつけること(言葉遣い)					
	4	幼稚園実習のオリエンテーションの際に気をつけること(立ち振る舞い)					
	5	社会人として自身がどうあるべきかについて考える					
	6	社会人として自身がどうあるべきかについて考える					
	7	幼稚園実習にむけて					
	8	幼稚園実習にむけて					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業態度 ②実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		50%
	取り組み	◎			◎		50%
履修上の注意	出席が5回に満たないものに単位の修得は認めない						

科目名	総合演習 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	前田 聖悟・上村 仁美・下川 武志		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	履修している保育・教育に関係する様々な科目を包括的に理解し、科目同士の繋がりを意識し、より深い学びを得ることを目的とする。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					幼稚園教諭として備えるべき姿勢や心構え、役割などを多角的に理解できる。	
	○		○			他者と協力しながら協同の中で幼稚園教諭としての資質を深めていくことができる。	
		○		○		学びを反復し、連動することでより深い学びを得ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	光明幼稚園実習に向けて					
	2	光明幼稚園実習に向けて					
	3	光明幼稚園実習に向けて					
	4	体育祭に向けて					
	5	体育祭に向けて					
	6	日赤コンサートに向けて					
	7	日赤コンサートに向けて					
	8	日赤コンサートに向けて					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①授業態度 ②実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		50%
	取り組み	◎			◎		50%
履修上の注意	出席が5回に満たないものに単位の修得は認めない						

科目名	造形表現(指導法) SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岡山 直之		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	造形表現の技法、身近な素材から教材への応用などを学び、実際の指導場面での実践的な取り組みを通じて表現への理解を深めていく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			造形技法を組み合わせることで作品を制作することができる。	
	○	○				造形技法の実技を通してその指導法を応用することができる。	
	○	○	○	○		子どもたちの発達年齢に応じた遊びを選択し、実際に提供することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目(幼稚園での保育に参加)				子どもたちとの関わり方を学ぶ	
	2	1日目(幼稚園での保育に参加)				子どもたちとの関わり方を学ぶ	
	3	1日目(お店屋さんの開店準備)				子どもたちの安全を考慮した環境づくりに留意する	
	4	1日目(お店屋さんの開店準備)				子どもたちの安全を考慮した環境づくりに留意する	
	5	2日目(お店屋さんごっこの提供)				全体を把握することに努める	
	6	2日目(お店屋さんごっこの提供)				全体を把握することに努める	
	7	2日目(振り返りとレポート作成)					
	8	2日目(振り返りとレポート作成)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況		○		◎		80%
	レポート作成		○				20%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	幼児と音楽表現SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中村 寛子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	地域の小学校での音楽発表会の演奏会の発表を通してこどもの為の様々な楽器の合奏、合唱、身体表現の力を身につける。また、音楽会の練習を通して保育者として必要なクラスメイトや他学年の仲間達との協働性、努力を積み重ねる力、音楽を通しての指導力を学ぶ機会とする						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			◎			身体のさまざまな部位を使用するボディパーカッションを通し、リズムを刻む事が出来る。	
			◎			自分のパートの音階を正しく歌唱し、合唱をすることが出来る	
		◎	◎			バケツドラム・タンバリンなどの打楽器を使用し、正しくリズムを刻む事が出来る。	
	○	○		○		手遊び歌を基にオリジナルの動きなどを入れた音楽劇をつくる事が出来る	
			◎			こども達の前で楽しく表現力を持ち、合奏・合唱を発表することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ボディパーカッション					
	2	バケツドラム・タンバリン合奏					
	3	合唱「怪獣のパレード」					
	4	音楽創作劇「きつつきおじさん」					
	5	2年生との合同練習 ランスルー①					
	6	2年生との合同練習 ランスルー②					
	7	音楽会本番 発表					
	8	振り返り・まとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)SCの出席(2)SC中の取り組みに対する意欲関心態度(3)歌唱表現(4)リズム表現をを以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SC出席					○	10%
	意欲・関心・態度			○	○		30%
	歌唱表現			○	○		30%
	リズム表現			○	○		30%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	幼児と言葉						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	天野 恵		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「言葉」のねらいおよび内容を理解する。 ・子どもの発達における言葉の重要性について理解する。 ・保育者としての言葉遣いを見直し言葉の楽しさや美しさに気づく。 						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				領域「言葉」のねらいについて説明できる。	
		○		○		子どもの言葉がどのように発達するか、順を追って説明できる。	
	○	○		○		美しい言葉とは何かを追求し、日々の会話のなかで常に振り返ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	保育所保育指針・幼稚園教育要領。その他、適宜教員作成の資料を配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2	領域「言葉」について考える				保育所保育指針・幼稚園教育要領を精読しておく。	
	3	保育課程・教育課程における領域「言葉」の位置づけ					
	4	言葉遊び				子どものころに遊んだ言葉遊びについてまとめてくる。	
	5	わらべ歌遊び					
	6	昔話					
	7	日本語の美しさについて考える				うまれたところの方言について調べてくる。	
	8	まとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○		◎		70%
	学修指示遂行状況	○	○		◎		20%
	授業態度				◎		10%
履修上の注意	私語等を慎み、積極的な授業参加を望みます。						